

萌丘東幼稚園 障害児保育について

はじめに

一人ひとりに違いがあることなので、最終的には面談等を通してお互いの考えや思いを共有して、個別に決めていくこととなります。しかし、実際に園に電話して面談するまでの道のりは、人によってはハードルも高く、足踏みすることでもあると思います。親としても今後どのように我が子に向き合っていくか決めかねている場合もあるでしょう。ですので、園の趣旨や約束など、大まかではあります。先にお伝えしておきますので、一步を踏み出すことに繋がってもらえればと思います。

そして、当園を利用することが一番大切なのではなく、親が一步踏み出すことが何より大切であることを知っていただければ十分とも考えています。

目的

- 集団生活を通じた経験をしてもらう

当園の障害児保育で提供できるものはこれにつきます。その子が集団生活の中で喜びや楽しさ、場合によっては悔しさなどを味わって、家族以外の人と共に過ごしていくための術を学ぶ始まりの場所となつてほしいと思っています。そのため、一時的に個別支援となることはありますが、長期的に個別支援を前提とした保育は行いません。5年後10年後をイメージして、今できる必要なことを常に考えて、お子さんと親御さんに接していきます。

約束

- 専属の保育者はつけない

お子さんにべつたりの保育者がいて、あらゆることを手助けするようなこと（介助）はありません。何事も自分でやってみようとする気持ちが芽生えるように適切な援助（支援）をするのが基本です。専属はつけませんが、クラスの保育者以外にも情報共有をし、個別カリキュラムなどは他クラスの保育者と共にカンファレンスを通して修正していくなど、東園全体でその子を見守る姿勢で進めていきます。

- 療育機関に通ってもらう

家庭・園・療育期間の3つの時間を大切にしており、どこかをおろそかにすると目的に繋がりません。場合によっては、集団の中にいるだけで気持ちは独りという状況を助長することになります。こんな悲しいことはありません。そうなると生活が支援で回らず、介助が必要になっていきます。

園は療育機関の情報を共有し、そのノウハウは集団生活の中の適切な支援のために活用はしますが、園は療育する場ではなく、あくまで集団生活の場として考えてください。

親としても時間を要することになります。

- 親御さんとの密な会話

2つのお約束からも分かるように、親御さんと共に進めていくことが大切になります。日々の会話や定期的な面談などを通して、家庭での様子や療育機関のお話などの共有をしていきます。また、そういった場を利用しながら親御さんの想いも聞きながら進めていくことになります。

運動や発表会など、行事の参加も面談等をした上で、全部参加なのか、一部参加なのか等、その子にとってよい選択ができるように進めていきます。

最後に

親御さんにとって、園に通っている数年間は様々な思いに揺れる時期でもあります。前向きにお子さんに関われる時期もあれば、療育機関に行くのに足が重たい時期があるなど、本当に色々なことがあります。私たちはそういった親御さんの様子もくみ取りながらも、何のために園に通っているのかがブレることがないように接していきますのでご安心ください。

全ての方が同じ気持ちを抱えながら、徐々に気持ちも足取りも前向きに、また、その様子がとても自然になっていきます。私達もお預かりした以上、卒園まで責任もってお預かりする心づもりですので、焦らずに、但し、着実に進めていければと思います。